

「おおいた早生」の完熟栽培体系の開発

農業研究部 果樹グループ

1. 研究の背景

本県で開発した「おおいた早生」は減酸が早く、9月出荷が可能であるが、糖度が低い傾向にある。そこで、浮き皮抑制剤として、ジベレリン（GA）とプロヒドロジャスモン（PDJ）を混合散布し11月に高糖度で高品質な果実を生産できないか検討する。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

「おおいた早生」は10月中旬頃から浮皮が増加するため、11月に高品質果実を生産するため、ジベレリン（GA）5ppmとプロヒドロジャスモン（PDJ）50ppmの混合散布を行い、区分採集（満開後60日全摘果量の20%–満開後120日葉果比30）を行うと浮皮が抑制出来た。着色はGP剤散布・区分採集区で10月28日まで遅れたが、それ以降急激に進んだ。また、区分採集でS果実以上を収穫後、GP剤を散布することで通常摘果（荒摘果7月下葉果比20–仕上げ摘果8月中葉果比30）に比べて収穫量の増加が見込まれる。

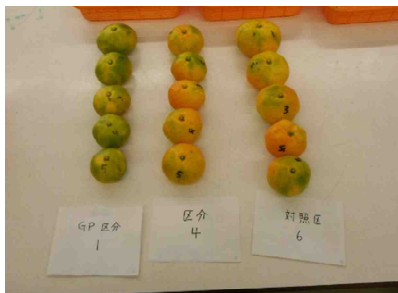


写真1 (左)GP剤散布・区分採集
(中)区分採集(右)通常摘果
(R3.10.18撮影)

表1 ジベレリン(GA)濃度の違いによる果実品質(2019年)

試験区	分析 月日	着色 程度	果実重		浮皮 程度	Brix	クエン酸 %
			果実 比重	果実 比重			
GA5ppm +PDJ50ppm 散布	10/9	0.7	94.7	0.92	0.0	9.5	0.78
	10/31	9.7	92.4	0.85	0.1	10.4	0.74
	11/11	9.7	99.2	0.85	2.5	10.9	0.75
GA1ppm +PDJ50ppm 散布	10/9	2.7	97.0	0.88	0.9	9.2	0.88
	10/31	10.0	94.4	0.84	0.8	9.9	0.84
	11/11	10.0	112.3	0.78	3.0	10.2	0.86
対照	10/9	3.0	103.4	0.86	1.4	8.6	0.90
	10/31	10.0	92.8	0.80	2.6	9.4	0.82
	11/11	10.0	95.2	0.74	3.0	9.8	0.91

表2 GP剤散布と摘果方法違いによる果実品質(2021年)

試験区	分析 月日	着色 程度	果実重		浮皮 程度	Brix	クエン酸 %
			果実 比重	果実 比重			
GA5ppm+PDJ 50ppm散布・ 区分採集	10/11	1.9	80.5	0.94	0.1	9.8	0.87
	10/28	6.9	85.2	0.92	0.7	10.5	0.96
	11/18	9.8	85.9	0.90	1.4	11.5	0.93
区分採集	10/11	6.4	80.2	0.92	0.5	10.2	0.89
	10/28	9.7	83.4	0.89	1.8	10.9	0.89
	11/18	10.0	79.1	0.88	2.1	11.9	0.92
通常摘果	10/11	6.6	93.0	0.88	0.8	10.3	0.85
	10/28	9.8	101.8	0.85	2.6	11.0	0.86
	11/18	10.0	99.7	0.82	2.6	11.4	0.83

表3 「おおいた早生」の完熟栽培における1樹当たり収量(2021年)

試験区	9月13日	12月3日	合計
	(kg/樹)	(kg/樹)	(kg/樹)
GP剤+区分採集	16.3	50.2	66.5 b
区分採集	13.3	39.8	53.1 ab
通常摘果		40.4	40.4 a

注1) Tukey法により異符号間に5%水準で有意差あり
y:12月7日調査時

3. 期待される効果

極早生温州と早生温州の端境期（10月下旬～11月上旬）に高品質な極早生温州を出荷することで高単価な出荷が見込まれる。浮皮が多い品種、時期でのGP剤活用の実証事例として利用が可能である。

4. 担当機関連絡先

農林水産研究指導センター 農業研究部 果樹グループ 温州ミカンチーム
電話：0978-72-0407
住所：国東市国東町小原4402